

## フォーカス



デジタル制作者向けの色彩検定を新設  
ウェブサイトやデジタルコンテンツ（情報の内容）の制作者向けの色彩検定が十一月、始まる。

南雲 治嘉氏

デジタル制作者向けの色彩検定を新設

仕掛け人はデジタルハリウッド大学で色彩学を教える南雲治嘉教授だ。「従

新検定を受ける人たちに問うのは、配色など際に科学的な根拠。例えば青色をみると、

### 配色に科学的な根拠求める

来の色彩検定はファッション、インテリア業界向け」といい、デジタル制作の現場を念頭に新しい検定制度を作ることにし

セロトニンというホルモンが分泌され、安らぎが得られる、といった合理的な説明がなければ、顧客企業は納得しない」。

同協会が主催する。色彩学への情熱は伯父の大智浩・元金沢美術工芸大教授の影響が大きいとか。「配色に関して、

あいまいな説明は一切通用しなかった」。尊敬する伯父の後を追うように、金沢美術工芸大を卒業して四十年、色彩教育に携わってきた。「色は言語と同じコミュニケーション手段。あいまいに扱われることに我慢ならない」。新検定を通じて持論を世に広めたいという。

「なぐもはるよし、64歳

デジタル業界向けの色彩学を広めるため、学内に研究室を設け、七月には自ら発起人となってNPO法人「日本カラーイメージ協会」を立ち上げた。新検定も